

## 三池鉱業所

施設管理者 : 三井石炭鉱業（株）  
施設所在地 : 福岡県大牟田市  
調査見学期 : 平成元年 11 月 16 日（木）  
施設概要

三池炭鉱の歴史は、約 500 年前（文明元年）一農夫が燃える石を発見したことに始まる。その後、享保六年に私営で採掘が行われ、明治 6 年官営となり、明治 22 年には三井家の経営に移り、今年で 101 年になる。

三井石炭鉱業(株)では全国石炭生産量の 1/3 を占め、三池鉱業所は日本最大の質と量を誇っている。ここでは 3 つの鉱山から成っていたが、合理化を進めるなかで三池鉱のみとなり、最盛期 450 万 t / 年あった生産量も現在 250 万 t / 年と規模を小さくしながら、能率を向上させ（124 t・人・月）、出炭コストを下げている。ここの石炭は電力、鉄鋼、セメントといった原料炭から一般炭にシフトが進んでいる。

現在では、沖合 11～12km までの海底 200m 以下に採炭場所が及んでいる。当地点の岩質は砂岩層で、炭層が 3 本挟在し、その最大は 5～6m に及ぶ。5～6m の炭層のうち 3m をスライシング法という採炭法で採炭する。ダブルレンジングドラムカッターという機械で切削し、支保は採炭部のみで採炭後部は自然崩壊させる（自走支保）。採掘された石炭はまずベルコン、次に 5m<sup>3</sup> 鋼車 30 両編成で坑道を、そして斜坑をベルコンで坑外に搬出される。

切羽（採掘場所）では地熱もあって 32～37℃ になり、基準値 30℃ 以下にするため通気（換気—全体で 4 万 m<sup>3</sup>）、ならびに冷房設備が整備されている。保安には最大限の注意が払われている。当然、坑内のすべての機械設備は防爆型であり、爆発伝播防止水袋、坑内湧水に対する排水設備、各種可燃性ガスの測定監視、非常時の避難誘導体制など万全が期されている。安全の状況はすべて地上の中央指令所で把握でき、24 時間体制が取られている。安全教育、避難訓練にも力を入れている。生産と保安の充実がこの相言葉となっている。

見学は直径 7.5m、深さ約 300m の入気立坑底までケージの速度 9m / s という高速の運搬設備で降り、同じ大きさの排気立坑を速度 6m / s で上がった。その他地上設備として、立坑やぐら、通気ファン、コンプレッサー、中央制御室などを見学した。炭鉱独特の安全に対するピリピリとした緊張感が印象的であった。（G E C ニュース第 4 号より抜粋）



三池炭鉱有明立坑設備（入・排気の 2 本）（写真提供—瞬間組花谷氏）